

所属・資格 総合文化研究室・助教

申請者氏名 李 婷

研究課題		在日中国人留学生が母語と日本語で行う待遇コミュニケーションの実態、意識と学び
報告の概要	研究目的 および 研究概要	待遇コミュニケーションは具体的な人間関係と場、及びコミュニケーション主体の意識に重点を置く研究分野であり、日本語教育に重要であることが広く認知されている。日本で学ぶ外国人留学生（以下、留学生）は、母語と日本語を使って多様な人間関係を構築・維持し、多様な場で待遇コミュニケーションを実践するのが重要なことである。しかし、留学生が母語と日本語を使って行う待遇コミュニケーション行為の実態、人間関係と場の捉え方、待遇コミュニケーションからの学びに関する調査が十分に行われているとはいいがたい。本研究では、中国人留学生に焦点を当て、課題1～3を通して待遇コミュニケーションの観点から日本語教育への提言を試みたい。【課題1】留学生が母語と日本語を使って行うコミュニケーション行為の実態を把握する。【課題2】課題1のコミュニケーション主体の双方に対するフォローアップインタビューを通して、待遇コミュニケーションの捉え方を究明する。【課題3】課題1と2を踏まえた上で、待遇コミュニケーションからの留学生の学びと成長を考察する。
	研究 の 結果	本研究の結果、在日中国人留学生は、母語と日本語を使い分けながら、異なる人間関係や場面に応じた待遇コミュニケーションを行っていることが明らかになった。特に、母語では親密な関係を重視し、敬語の使用は限定的であったが、日本語では社会的距離や場の改まり度を考慮し、敬語や丁寧な表現を意識的に用いる傾向が見られた。また、留学生は待遇コミュニケーションの違いに戸惑うことがあるものの、経験を通じて適切な表現を学習し、日本語での対人関係構築に活かしていることが確認された。
	研究 の 考察 ・ 反省	本研究では、留学生が母語と日本語の待遇コミュニケーションを使い分け、状況に応じた言語的適応を行っていることが示された。しかし、調査対象者が限られており、より多様な背景を持つ留学生のデータを収集する必要がある。また、待遇コミュニケーションの習得過程における困難点や、学習者が意識的に行う工夫について、より詳細な分析が求められる。今後は、待遇コミュニケーションの教育的支援の在り方を検討し、日本語教育への具体的な応用を探る必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>李婷「留学生の講義理解に関する研究と教育実践」日本大学×清華大学日本研究フォーラム2024, 2024年11月2日, 日本大学文理学部</p>	